



地域に根ざした工業技術センターをめざして

所 長 遠矢 良太郎

このたび、4月1日付けで当センター所長を拝命しました。前任者の水元所長同様、よろしくお願ひ申し上げます。

今日、製造業の国際競争力の低下、高度情報化の急速な進展、少子・高齢化社会の到来、地球規模での環境問題の顕在化など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しつつあります。

このような中で活力ある本県経済の持続的な発展を図るためには、研究開発を積極的に進めながら、独自技術による高付加価値化製品の開発や新規産業の創出に向けた取り組みが求められています。

県では、平成13年度から平成22年度の「21世紀新かごしま総合計画」を作成し、その中で県政の重要課題として「創造性あふれ力強く伸びゆく産業の振興」を図ることとしています。

また本年3月には「鹿児島県科学技術振興指針」を作成し、「科学技術で拓く活力あふれる『鹿児島』」を基本理念に、製造・生産技術、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー・材料、情報通信技術、環境・エネルギーなど、本県が今後取り組む必要があると考えられる8つの重点的研究開発分野が示されました。

工業技術センターでは、これら県の「21世紀新かごしま総合計画」と「科学技術振興指針」に基づき、県内中小企業などの「技術の拠りどころ」を基本理念として、研究開発と技術支援を両輪に事業運営を進めます。

研究開発においては、「地域資源の高度利用」、
「生産・加工システム」、
「新素材・新材料」、
「バイオテクノロジー・食品」、
「電子・情報」、
「人間・環境・デザイン」の6分野を重点分野として取り組み、技術支援においては、中小企業などへの「技術移転機能」、
「人材育成機能」、
「情報の提供発信機能」、
「依頼試験分析・技術相談機能」などの機能充実を図ります。

最近の成果として、「黒糖焼酎粕を利用した健康酢の商品化支援」、
「使用済み発泡ポリスチレンの再生処理技術の企業化支援」、
「シラス利用の瓦・緑化基盤材の開発」、
「シラスバルーンに金属を被覆する技術や広帯域電波吸収体の開発」、
「CD再研磨装置の開発の支援」、
「スギ中小断面集成材の企業化支援」、
「木竹炭ボードの企業化支援」、
「仏壇彫刻部品のレーザ加工技術の開発」、
「3次元CAD/CAM中小企業研修の500人日の実施」などがあります。このように企業ニーズを基に進められた研究成果は、直ちに実用化され、現在、新規事業への展開や新商品として販売がなされるなど当センターは地域の産業界と一体となった取り組みをしています。

また、当センターには充実したホームページなど自慢すべき情報発信機能があり、皆様に広くご利用いただいています。また、メール配信サービス「KIT-enews」（称して、きっといいニュース）の配信サービスは、県内約500人の方々に週1回ほど配信し好評をいただいています。

今後はさらに、企業のニーズや市場のニーズの把握に努め、社会性・市場性・経済性のある研究開発を産学官の連携を図りながら優先的に実施し、中小企業などが行う付加価値の高い新製品・新技術の創出に貢献してまいります。

そのためには、研究成果が実用化に結びつくように努力を傾注し、鹿児島の産業支援機関である（財）かごしま産業支援センターをはじめ関係機関との連携強化を図ります。また、研究シーズの源泉である大学などをはじめ他の学術研究機関との連携を深めながら、研究機関として社会経済の変化に対応できる、足腰の強い、工業技術センターを目指して参ります。

そして県内中小企業の「技術の拠りどころ」としての使命を果たしたいと存じます。関係各位のご支援・ご協力をお願い致します。